

大村横穴群

人吉駅裏にある大村遺跡群には、26 基の玄室が崖面に彫られています。これらは、16 世紀末にまで遡るもので、人吉・球磨エリアの初期の歴史や、14 世紀に大和地域（現在の奈良県）で始まった大和朝廷の政治的影響力をうかがい知ることができます。

横穴式古墳の狭い入口は、深さ約 2 メートルのドーム型の空間につながっています。古墳群から残骸や埋蔵品は発見されていませんが、崖面を掘るために必要だったと思われる労力から、ここに埋葬されていた人物は権力者であったことがうかがい知れます。

古墳群は崖面を 800 メートルにわたって横に続いており、うち複数の入口には彫刻による装飾が施されています。デザインには、幾何学模様、馬、武具、弓矢などの武器などが含まれています。中には本来の姿が分からないほど風化したモチーフもありますが、敷地内の標識には元々の姿を描いたものが展示されています。

この古墳群には、古墳時代（ca. 250-552 年）の埋葬方法や図像、大和朝廷の支配下にあった地域の文化との類似性を見ることができます。大村横穴古墳群は、今日までに発見されている、このような類似性が見られるものの中でも、最も南方に位置する墓地の 1 つです。日本の中央集権

的国家は大和朝廷より始っており、大村横穴古墳群は、6 世紀末までには南部の人吉・球磨エリアにまで、大和の影響が及んでいたことを示しています。九州全体としては、8 世紀になるまで中央集権統治されませんでした。